



海底と宇宙に資源を求めて
—海底資源学概論—

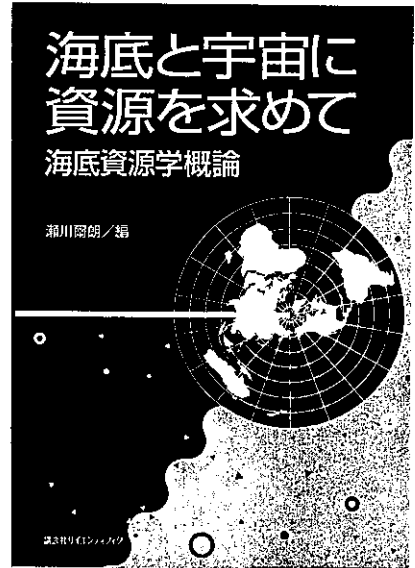
瀬川爾朗編，講談社
2002年12月10日発行
B5版，150ページ
定価4,200円（税別）
ISBN4-06-155217-1

四方を海に囲まれた我が国で、我々の生活は水産、輸送、気象、レジャー等の諸局面で大きく海と関わりを持っている。ベールに覆われた海のことを深く知りたい、海を利用したいと考え、海に興味を持ち始めた学生や社会人に対して、本書は興味深い海洋の世界を紹介する。本書の目指すところは資源開発の観点から海の調査の重要性を指摘することであるろう。言い古された“海洋開発”、“宇宙開発”の全体像を最新情報と現場データに基づいて新鮮に解説している。平易な文章を使い、多彩な写真や図表を採用するなど読みやすい工夫もされている。

本書は東海大学海洋学部の13名の教授陣によって分担執筆されたものであり、その専門分野は地質、物理、科学、工学など多様である。読者の対象は大学1、2年生の若い学生であり、主に大学での講義資料に用いられると推察されるが、同時に平易な内容は一般読者にも適している。

執筆内容は、概論、調査法、開発技術の三章に別れている。第1章では海底資源の概要、分布、成因について、陸上鉱床との比較も交えて解説している。第2章では、海水、海底、海底下の構造・性質を知るための物理的手法の基本理論と先端機器・装置の解説を、第3章では各種資源の、採掘、選鉱、精練のアイデアや装置の説明が述べられている。第4章には資源開発の観点からの惑星探査の現状と将来計画が記されている。

全般的に教科書としての完成度は高いが、細分化された各項目の記述では最新のレビューが不十分なケース、不適切な引用によって誤解を招く表現などが若干見受けられるが、全体構想や概念に



まで影響を与えるものではない。本書の特徴は最先端の調査・研究・開発に携わる各担当者がその一端を実例を交えてリアルに描いている点であろう。各所に新しいデータ、機器紹介、アイデアが見受けられ、他の海洋学の一般的教科書には無い新鮮な感覚に溢れている。反面、項目によっては若干の物足りなさを感じることもある。例えば全4章のうち本冊の半分以上のページを占める第2章「調査」に最も力点が置かれていて充実した内容となっている一方、鉱物資源の概要（特徴、分布、成因、利用）についての記述は極く簡単な記述で終わっている。海底資源そのものに興味を持った読者は他の専門書を併読されることが望ましい。

編者の瀬川氏はまえがきで、世界の資源・エネルギーの枯渇に警鐘を鳴らし、「海底資源で利益を上げている企業は未だ無いが、将来に向けて海底資源に関わる教育が必要である」と述べ、海底資源に関わる研究・教育は不可欠であると主張する。我々の科学知識は沿岸域から深海へ移行し、研究目標は単なる資源開発研究から人類生存のための地球環境保護へと代わりつつある。海との関わりを持ち始めた若い学生や研究者だけでなく、海洋資源とは別の観点で海洋の調査、研究を業務とする方、あるいは海洋資源開発をキーワードとして海洋に思いを巡らしてみたい方に最適の書物である。

（海洋資源環境研究部門 臼井 朗）